

平成 23 年度第 14 回石狩市行政評価委員会議事録（要点筆記、委員長署名方式）

日 時：平成 23 年 8 月 18 日（木）9：00～

場 所：石狩市役所 3 階庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
委員長	松井 義孝	○	(事務局) 企画経済部長	佐々木 隆哉
副委員長	長谷部 清	○	(事務局) 企画課長	松 田 裕
委員	岩崎 雄三	○	(事務局) 企画課企画担当主査	佐々木 大樹
委員	堀内 秀和	○	(事務局) 企画課企画担当主任	笠 井 剛
委員	堀 弘子	○		

傍聴人：0 名

1 開会

【事務局：笠井主任】

それでは第 14 回行政評価委員会を開催いたします。委員長よろしくお願ひいたします。

2 議題

(1)「評価報告書（案）」について

【松井委員長】

おはようございます。はじめに所管からの意見回答について、事務局から説明をお願いします。

【事務局：笠井主任】

お配りしている A3 のペーパーは、皆さまからいただいた評価意見案に対する施策担当部長からの意見です。

まず、『保健・医療の充実』の部分で、「救急体制については、引き続き札幌圏の医療機関との連携を図る必要があります。」という意見がありましたが、「市内の救急体制」という表現に替えさせていただきました。

次に、「こころの健康推進事業」の指摘事項に、「ゲートキーパーの養成について、現状では、民生委員、介護専門員等を主に進めています。」という部分がありますが、本年度の取り組みであることから、一部記載内容の修正をさせていただきました。

次に、『観光の振興』指標 1 の評価意見に、「観光の目的は市の魅力づくりであると同時に、経済振興の要素も強いことから、それらの効果を推し量るための指標の設定が必要です。」とありましたが、委員会が望ましいと考える指標の例示をいただきたいとのことでしたので、例えば、「海水浴場を除く観光入込客数」などはどうかということを加えました。

続きまして、『青少年の健全育成』の「各種青少年育成事業の活性化には、町内会や他のまちとの交流事業など、市が率先して具体的なメニューを示していく。」という部分で、現在も地域が主体となっていることに対して誤解が生まれるのではないかとのことでしたので、「地域がより主体的に取り組むことができるよう」という一文を追記させていただきました。

また、「ひきこもり対策については、戦略計画の見直しにあたって、「保健・医療の充実」に関連する事業との連携を具体的に示してください。」という評価意見については、この「ひきこもり対策」に関連する施策・事業は、「保健・医療の充実」にかかわらず「障がい者福祉の充実」など様々な施策にまたがりますことから、「保健・医療の充実など」という形で修正させていただきました。

【松井委員長】

一施策ずつ、施策評価シートの「6 行政評価委員会意見」欄の(1)から(3)について確認して行きたいと思います。

はじめに、『公共交通環境の充実』について確認します。

「(2)今後の方向性に関する意見」のアンケート等による把握ということと、「(3)施策等に関する評価意見」の中の、「バス利用率の向上を図るため、行政・市民・事業者それぞれの役割を明確にした中で、新たな取り組みを検討し、具体的な方策を示していく必要がある。」ということについて、所管から何かコメントはありませんでしたか。

【事務局：笠井主任】

特に意見はいただいていません。

【松井委員長】

出来ないということはないということですね。

こちらで伝えようとしている内容として、よろしいですか。

【堀委員】

良いと思います。現状が全然把握されていない、ということでしたので、アンケートによって何が対策として必要なかが分かってくるとと思います。

【松井委員長】

アンケート等を用いて把握していただけるという理解で良いのですね。

また、バス利用率の向上についても、何かしら方策を打っていただくということでもよろしいですね。

それではこれで確認とします。

ところでパブリックコメントで、意見は出ていないのでしょうか。

【事務局：笠井主任】

ご報告が遅れ申し訳ございません。今年はゼロ件です。

【松井委員長】

次に、『情報通信網の整備』について確認します。

「(2)今後の方向性に関する意見」では、行政サービスにおいて、ハードからソフトへの転換を意識した新たな指標の設定や、「情報弱者」への情報提供の仕方をポイントとしています。

また、「(3)今後の方向性に関する意見」では、情報部門の役割としてコーディネートなど挙げていますが、ここにつきましても所管から特に意見が来ていませんので、所管としてトータルのリーダーシップをとっていただけるという理解でよろしいですね。

それでは、ここはOKということで次に進みます。

次に、『保健・医療の充実』について確認します。

指標 2 について、指標もしくはアンケート内容の見直しを指摘していますが、これに関していかがでしょうか。

【堀委員】

不満足の原因が健診の内容ではなく「待ち時間」ということでしたので、本来的には健診の中身について、評価をすることが大切だと思いますので、これで良いと思います。

【松井委員長】

「(3)施策等に関する評価意見」の中で、「戦略計画」とあるのは総合計画のことですね。

【事務局：松田課長】

そうです。

【松井委員長】

先程説明のあった「こころの健康推進事業」の修正の中で、「関わりの深い、民生委員、介護専門員等」という部分は、特に深い意味があるのでしょうか。

【事務局：松田課長】

この修正というのは、民生委員や介護専門員のゲートキーパー養成が、評価対象である去年の事業ではなく、今年の事業であるということで、言い回しの整理をしたものです。

【長谷部副委員長】

「関わりが深い方」とすると、もっと対象の広がり伝わると思います。

【事務局：松田課長】

所管として今の段階では、民生委員や介護専門員をターゲットにしているということでしたが、評価委員会としては、もっと広がりを期待するという所がポイントでしたので、「介護専門等」の「等」の中に主旨が伝われば良いと思います。

【長谷部副委員長】

幅を広げたいという主旨でしたね。「等」があるので良いとも思いますが。

【松井委員長】

文章の最後に、「広く人材の発掘、育成に努める必要がある。」と結ばれていますので、良いことにしましょう。

【事務局：松田課長】

こちらから伝えようとしている主旨は、所管の方にもきちんと伝わっていると思います。

【松井委員長】

「地域健康づくり支援事業」の中の、「OB・OG」というのは、意として民生委員や介護専門員となるのですか。

【堀委員】

これは、評価委員会から出した言葉ですね。

【松井委員長】

広い意味がありますので、どうにでも解釈ができてしまいますね。

【堀委員】

このことについて所管から意見はなかったのですか。

【事務局：笠井主任】

特に意見はありませんでしたが、健康推進室ではこのOB・OGについては「市役所職員」と捉えていたようです。

【事務局：佐々木主査】

はっきりと表記しなければ、分からなくなってしまうと思います。

【松井委員長】

それでは、「ボランティア等」に修正します。

その他、よろしいですか。

次に、「観光の振興」について確認します。

「(1)現状の課題認識に関する意見」のところで修正がありましたが、その件も含めていかがでしょうか。

今年の海水浴入込客の状況はどうでしょうか。

【事務局：佐々木部長】

まだ具体的な数字は掴んでいませんが、今年は40万人に近い数字が期待できるのではな

いかと思います。

【松井委員長】

「(2)今後の方向性に関する意見」の中のホスピタリティの育成ということについては、ご理解いただいたということで良いですか。これは、戦略計画にも記載がありますので。

それと、「とれのさと」の所で、「1次産業と観光を目に見える形でわかり易く融合させる取り組み」ということもご理解いただけますか。このところは、「とれのさと」をたたき台として、1次産業と観光の融合を広く取り組んでくださいという意味合いですね。

【堀委員】

「とれのさと」のことだけでは書けないので、こういう表現になっていると思います。

【松井委員長】

担当部からは意見がありませんでしたので、これでよろしいということですね。

【事務局：佐々木部長】

担当部としても必要だと思い、今やっているところですので認識は一致していると思います。

【松井委員長】

ホスピタリティの部分はいかがですか。

【事務局：佐々木部長】

具体的にどういったことをやってホスピタリティを向上するのか、という部分は難しいところではありますが、方向性はその通りだと思います。

【松井委員長】

分かりました。

それでは次に『公園・緑地・水辺の整備』に進みます。

【岩崎委員】

花いっぱい運動に関して、特にコメントはなかったのですね。

【松井委員長】

これは市制施行からやってきた事業ですが、何年になるのでしょうか。

【岩崎委員】

市制施行は平成8年ですから、もう15年になりますね。

【松井委員長】

毎年、一年草を植えているのですか。

【堀委員】

多年草を植えているところもありますが、一年草のほうが花を長く楽しめるということで、一年草を選ぶ傾向が強いと思います。

【松井委員長】

ヒアリングの中で、重点的にやろうという意思はなかったでしょうか。

この文面ですと、もうそろそろ終わっても良いのではないかとこのように捉えられます。

【堀内委員】

現状維持ではないですが、事業としてこれ以上の発展は望んでおらず、市民が自ら花を植えようという心が育てば、一つ目標は達成されたということではないかと思えます。

この事業は、どこかにシンボリックに花を植えようということが目的ではなく、市民自ら地域を花でいっぱいにする文化を根付かせることが目標ですから、これ以上の進展はないのではないのでしょうか。

人手不足など、実際、草取りの手入れなどに限界が感じられる状況もあり、今後の持続可能なあり方について、提案する時期ではないかと思えます。自分たちができる範囲の花壇であれば可能ですが、すべてやることは負担が大きいです。

【長谷部副委員長】

こう暑い日が続くと、水やりも大変ですね。ですから、どこかで問題の整理をして行く時期かも知れませんね。

【堀内委員】

まして、高齢化になってきていますので、管理できる限界があると思えます。

【長谷部副委員長】

多年草にするか、一年草にするかという以前の問題ですね。

【堀内委員】

花いっぱい運動の今後の方向性は、一度、問題提起をするべきだと思います。

【松井委員長】

シートの記載の中で「町内会の役割のあり方」の次に、「新たなシンボルロード等を検討」などと追加してはどうでしょうか。

【堀内委員】

今一度、花壇整備について、話し合う時期だと思います。

【松井委員長】

ここでは、「地域を花でいっぱいにする文化を根付かせる。」ということは提言していませんね。

【堀内委員】

現在でも、ボランティアのお手伝いが 40 人、50 人で取り組んでいるのですから、文化が根付いてきていると言えます。

【堀委員】

花を植える作業には、大勢の方の協力が得られているのかも知れませんが、その後の管理となると、一人の方でやっているといった状況も中にはあるのではないのでしょうか。

そう考えると、この事業は町内会が主体となってやっているというよりは、この事業があるから人が出てくるという現実でしょうか。そうであれば、最初に目指していたものとは少し違う気がします。

【松井委員長】

「今後の管理も含めてあり方を検討する必要がある。」という意見でしょうか。

【堀委員】

私はこの文章で、そういった所まで読み取れると思います。一年草か多年草か、管理の方法など、町内会がそれぞれに主体を持って取り組むことが大切だと思います。

【事務局：佐々木主査】

今の議論を聞いていない方にとっては、この文章からそこまで読み取ることは難しいかも知れません。

論点は 3 つあると思います。投資のプライオリティ、維持管理の問題、最後に、今回新たに追加しようとした、シンボルロードの設定など。この 3 点を反映した形で修正してはいかがかと思います。

【長谷部副委員長】

私も、具体的な提言を盛り込まなければ、この文案からすべての意図を汲み取るというのは無理だと思います。

【堀内委員】

例えば、5 丁目通りはどうする、といった方向性がないのですよね。ただ 4 月になったら市から苗が来て、それを植えるという繰り返しになっています。

【松井委員長】

それでは、今の 3 つの部分を含めて修正するということにします。

次に、『景観づくりの推進』に移ります。

「(1)現状の課題認識に関する意見」のところで、指標の目標値を達成していない原因を分析する、「(3)施策等に関する評価意見」では、学識経験者などとの連携を図った事業展開などを提言していますが、所管としては特に意見がなかったようですね。

【事務局：佐々木主査】

事務局としては、指標設定のあり方について、少し気になっています。例えば、アンケート項目の内容を、もっと限定的な項目に絞るという方法もあると思います。

【堀内委員】

満足していない理由は、やはり「ごみ」なのでしょうか。石狩はいまだに不法投棄が多いというイメージが強いですね。市民にとってはそれが悪いイメージにつながっているのではないのでしょうか。森や川に対して、特に悪いイメージはないですね。

【堀委員】

「ごみ」ということであれば、指標 2 の「まち並み景観」に関わってくるのではないのでしょうか。指標 1 の「自然景観全般」となると、石狩川ですとか、そういう部分のことになるのでしょうか。

【事務局：佐々木主査】

「自然景観」と言いますと非常に大きなテーマとなりますね。

【堀内委員】

「自然景観」の地区を具体的に挙げて、石狩川河畔の管理、砂浜の管理はどうですか、というように聞いていくしかありませんね。

【事務局：佐々木主査】

例えば、自然景観ですと砂浜清掃に従事した人の数、まち並み景観ですとごみ対策課による不法投棄の発見件数、といった形の指標設定も考えられます。

【堀内委員】

石狩のまち並みは、戸別収集などの成果もあって、他の町よりきれいだと思います。今問題になっていることでは、緑のリサイクルの出し方などがあります。

【長谷部副委員長】

石狩市は広いですし、アンケートを取るとしても、住居地区を対象とするなどの工夫が必要かと思います。

道路にプラスチックごみが捨てられていることを見かけますが、ごみの管理区域は、市であったり国・道であったり、色々ですね。

【堀内委員】

石狩川の管理はどこですか。

【事務局：佐々木部長】

開発局です。

【堀内委員】

そのことを知らない市民からすると、石狩市の管理が悪いという不満になってしましますよね。

【事務局：佐々木部長】

あまりにも処理に手間がかかるごみでなければ、連絡がくれば市が処理することもあります。

【長谷部副委員長】

この「満足している市民の割合」というのは、対象をどういう市民にしたかということも含めて難しいですね。どこを見て満足したか、ということもあります。

【松井委員長】

海や川、公園、山などとテーマを分けてやったら良いのではないのでしょうか。ただ、あまり環境に特化するのもどうかと思います。

今の指標ですと大雑把すぎるので、もう少し視点を検討してみると良いと思います。

都市マスタープランなどにキーワードはないのですか。

「原因を分析する」という表現は少しきついかも知れませんが、「原因を検討する」程度が良いと思います。

【堀委員】

この『景観づくりの推進』施策評価シートの「4 現状把握と今後の方向性」のすべての欄で花いっぱい運動のことが書かれていますが、「6 行政評価委員会意見」としては触れなくても良いのでしょうか。

【事務局：松田課長】

これは、公園か景観か、どちらかに入れましようとしたと思います。再掲という形で、両方の施策シートに載せることもできると思います。

【松井委員長】

それでは、再掲として両方の施策に同じ文面を入れたいと思います。

最後に、『青少年の健全育成』を確認します。

指標 2 は、こういう論議でしたでしょうか。

【堀委員】

条約の認知となりますと、名前だけは聞いたことがあるという人や、内容まで知っているという人、それぞれどういう判断をして回答をするかによって違いが出るということをお話したと思います。

【松井委員長】

そうですね。ただ、「条約の精神を実現するための事業展開」、ここまで難しいことを求めているのでしょうか。

【事務局：松田課長】

単に条約の認知度に着目するよりも、具体策の効果を測ることの方が有効ではないか、という観点だったと思います。

【岩崎委員】

例えば、CAPを指標に用いるという手法もあると思います。

【事務局：松田課長】

岩崎委員がおっしゃった部分も踏まえて、もう少し具体的に見えるようにしようという主旨だったと思います。

【事務局：佐々木主査】

この部分の記述は残していただいて、今後、所管との相談の中で、指標の見直しを検討したいと思います。

【松井委員長】

例えば何々のような、といった具体の例示があれば良いかも知れません。

【事務局：佐々木主査】

「目標値の達成は厳しいと思われる。」という部分は落としても良いのでしょうか。

【松井委員長】

わかりました。

「(2)今後の方向性に関する意見」の修正意見では、「地域がより主体的に取り組むことができるよう」という文章を追記するとのことですが、我々が指摘したのは、市が率先してメニュー出しをして地域が動くような仕組みを考えて欲しいということでしたね。

【堀内委員】

市が活性化のために具体的なメニューを示していくことは普通のことではないでしょうか。回答の中にある、「本末転倒」という言葉は理解できませんね。

【堀委員】

ヒアリングの中では、必ずしも地域が主体となることを求めている訳ではないということを書いていましたので、そうであれば、市が具体的なものを示してあげるべきではないでしょうか。

【堀内委員】

施策を考えたのは地域ではなく部局ですよ。ですから、部局はどうしたら良いのか噛み砕いて地域に提案すべきではないでしょうか。

【事務局：佐々木部長】

直接担当部長に確認した訳ではありませんが、こども室は、子ども健全育成的な施策の基本的なスタンスとして、市役所がやらせてはダメだという感覚を持っています。また、やっている側も、やらされているという感覚を持ってしまうと、子どもの視点に立った事業展開や発展性の確保が難しくなってしまいます。

所管は、今、委員の皆さんがおっしゃったようなニュアンスでは受け止めていないのかも知れません。皆さんが地域にやらせなければダメだという感覚を持っていると感じて、このような回答になったのではないかと推測します。

【事務局：松田課長】

委員会意見の主旨は、担当の部長も理解していると思います。文章上で誤解をされたくないということで、このような修正をしていただきたいということだと思います。

【堀委員】

修正案で「地域がより主体的に取り組む」という言葉が入ることによって、地域が主体という考え方がより明確になりますので、それはそれで良いと思います。

仕掛けは市がやったとしても、最終的に、主体的に取り組むのは地域です、ということになりますね。

【事務局：松田課長】

そういう方向に向かっていくために、市として色々と工夫して取り組まなければならないという意識を所管は持っていると思います。

【松井委員長】

事業をやるのが目的ではなく、青少年を育成するというのが根本にあるはず。地域がやることもありますが、もう少し行政が市民に対して手を差し伸べてはどうかということですね。

【堀内委員】

まだ事業が軌道にのっていないのですから、まず見える形にしてから行政が撤退しても良いと思います。文書を流して後は地域で、といっても難しいと思います。

【事務局：佐々木主査】

実際のところ、市が全く手を出していないかというところではないと思います。地域の青少年育成会などの組織と協力しながら、事業を進めている例もあります。

【松井委員長】

わかりました。所管の意見のとおり修正しましょう。

「子どもの権利啓発プログラム事業」の部分はよろしいですか。

【堀委員】

CAP 事業に保護者の参加が少ないということでしたので、「事業主旨の理解を広める」としていますね。子どもだけではなく、保護者も一緒に聞く必要があるということでした。

【松井委員長】

「(3)施策等に関する評価意見」のところの「ひきこもり対策」の部分で、「保健・医療の充実との連携」とありますが、「全庁的に」という部分を加えなくてもよろしいですか。

【岩崎委員】

具体的に「障がい者福祉」なども挙げてはどうでしょうか。明確に書いた方が良いと思います。

【堀委員】

教育の部分にも関係があると思います。

【松井委員長】

幾つか例示を挙げて、その上で「など」と括っておけば良いと思います。

施策については以上です。

～ 休憩 ～

【松井委員長】

それでは事務局から、評価報告書（案）について説明をお願いします。

【事務局：笠井主任】

大きく 5 項目に分かれています。「1. 今年度の行政評価について」、「2. 施策評価の対象」、「3. 評価経過について」、「4. 施策評価の視点」、「5. 施策評価（総括）」です。

はじめに、1 ページの「1. 今年度の行政評価について」では、前段、今年度の施策評価、事業評価について述べています。中段以降が今年度の評価内容となりますが、「評価の中では、一部の施策や事業について、最終到達点のイメージが難しいものや、事前のニーズ把握、緊急度などに疑問の残るもの、状況の変化に対応した事業展開とは言い難いものなども見受けられた。また、今年度評価した施策では、情報通信網の整備や保健・医療の充実

など、他の施策との連携を意識した取り組みが求められるものも多く、部局間との連携を意識した取り組みとなっているのか疑問に感じられる場面も見られた。今年度は、石狩市総合計画戦略計画の後期見直し年次でもあり、費用対効果や施策に対する貢献度から、改めて事業の必要性や手法を検証し、適切な目標設定のもと、社会情勢の変化や市民ニーズを的確に反映した見直しが求められる。」ということ今年度の総括としました。

【事務局：松田課長】

ここの部分は、これまで皆さんから出された意見を文言としてまとめたものです。

【松井委員長】

2と3について、よろしいですか。

【岩崎委員】

はい。

【事務局：笠井主任】

4番についても、「施策評価の視点」ということで、「現状の課題認識と今後の方向性」と「施策を実現するための手段（事業の必要性等）」、「成果指標の妥当性」を挙げたものです。

委員の皆さんの意見をまとめているものは、実質的には1番と5番になりますので、次に5番を確認しますか。

【松井委員長】

そうですね。次に「5. 施策評価（総括）」は、「評価委員会は外部の視点で、個別の施策評価を行ったが、ヒアリングや評価の過程での議論や意見の中で、個々の施策・事業等に共通している課題について、総括意見として取りまとめる。(1)事業の実施について、①昔から継続実施しているという理由で、漫然と続けるのではなく、今求められていることは何かを見極め、事業を実施すること。②庁内各部局が横断的に連携して取り組む事業が散見され、単に合同で実施したことに満足している事業も見受けられる。より実利の伴った「連携」となるような創意工夫により事業を推進すること。(2)指標の設定について、①事業の成果を推し量る上で有効な成果指標の設定に努めること。②指標の決定にあたって、目標値を設定しないということは、適切な評価が困難であるばかりか、結果的には漫然とした事業継続にもつながる。指標の設定理由を今一度検証し、明確な目標を設定のうえ事業を実施すること。③一般市民が実感しやすく、時系列で把握しやすい成果指標を設定すること。④市民アンケートにより市民満足度を成果指標として設定しているものは、「不満と思う」原因を調査し、施策・事業の改善や見直しに努めること。(3)取り組み姿勢について、①評価シートの作成は、行政の業務を一般市民に対し説明する役割を果たすためのものであることを認識し、誰もがわかり易い明解な表現を心がけること。②限られた財源の中で成果向上を図るため、常に改革・改善を意識し取り組むこと。③費用対効果や施策に対する貢献度から真に必要な事業を絞り込み、施策全体の成果向上を図るよう、経営資源の集中化に取り組むこと。」となっています。

(1)①の「昔から」という表現はいかがでしょうか。「従来から」が適当でしょうか。また、「一般市民」の「一般」はとった方が良いでしょう。

【事務局：笠井主任】

2箇所修正いたします。

【松井委員長】

次に、(2)②の「時系列」という言葉がありますが、支障ないでしょうか。

【事務局：松田課長】

このイメージは、毎年データが出て、把握し易いという主旨です。

【松井委員長】

支障がなければ構いません。皆さん、他にご意見はありませんか。

主として議論されたのは、指標について、計量できるものは表示してください、ということでしたね。それと、縦割りだけではなく、市民と連携できるものは連動して欲しいという意見がありました。

【事務局；松田課長】

先程の分析の仕方は調整が必要だと思います。また、アンケート結果の捉え方について、一連の話題になってきたと思いますので、総括的な意味合いでは加えて良いかと思います。

【松井委員長】

事務局としては、これまでの種々の意見を次の評価会議につなげることを考慮してまとめているのですね。

そろそろ打ち止めしてはどうかと論議の出ている、花いっぱい運動に関しては、(2)②「指標の設定理由を今一度検証」あたりに含まれているのですか。

【事務局：松田課長】

(3)③か②あたりかと思います。

【松井委員長】

例えば、要点として公共交通のバス代替路線といった議論がされていた点は、どの部分と考えれば良いでしょう。やはり(3)③でしょうか。

【岩崎委員】

(3)③でしょうね。

【松井委員長】

ゲートキーパーやキーパーソンについてもこの部分ですね。

1 ページに戻って、質問はありませんか。1 ページは概論なので、特に問題はないでしょうか。

【事務局：松田課長】

ここは、性格的には一年間を通して委員長の所見であったり、全体を通じて特に目立った事柄などをまとめたものとなっています。個別の事案については、それぞれで指摘されるということになります。

【松井委員長】

わかりました。そうしますと 5 ページを中心に議論することで良いのですね。これだけはいれたい、というものはありますか。

総合計画戦略計画の見直しに関連して、見直してくださいという部分は。

【岩崎委員】

前段にありますね。

【松井委員長】

1 ページにありますのでよろしいですね。

【堀委員】

総括の中で、現状のアンケート結果では成果を見ることができなかったという部分もあったと思いますが、そういうことは入れておかなくても良いのでしょうか。

【事務局：松田課長】

(2)④の意図の中に含まれていると思います。総体的な状況を拾うためのアンケート、ということですので「市民満足度」に特化することもないとは思いますが。

【松井委員長】

この記述では「市民の満足度」に特化されてしまいませんか。

【事務局：佐々木部長】

シンプルに、「市民アンケート結果を成果指標として」としてはどうでしょうか。

【松井委員長】

そうですね。

【事務局：松田課長】

ここでは、目標値に達していないものについて、もう少し掘り下げて行くべきだと指摘していることと、もう一つは、項目の設定について施策を的確に捉えているか、2 パターンあると思います。

【松井委員長】

(1)①はこれでよろしいですか。行政として既にやっていますというような意見はありませんか。

【事務局：佐々木主査】

このところで、「今求められていることは何か」に加えて、今後求められることは何かという観点を入れてはどうかと考えています。現在だけではなく、将来的な見通しも併せ持ちながら事業を実施するということです。

【松井委員長】

分かりました。

【事務局：佐々木主査】

それと、事務局からもう一点ですが、(3)の次にもう一項目、行政評価委員会の運営に関することを加えてはどうかと思います。具体的には、ご意見で出ていた部局横断的なヒアリングの実施について、あえて定義付けさせていただいて来年度の検討課題としてはどうかと考えたところです。

【岩崎委員】

ひきこもり対策は、横断的な面がありますね。

【松井委員長】

(1)①の「散見」という言葉はあまり馴染みがないですね。

【事務局：笠井主任】

平易な表現に変更します。

【堀委員】

議論が深まると、色々な部分に課題が散らばっているということもありましたので、そういう意味ではこの表現で良いのかなと思います。

【松井委員長】

先程の(4)、行政評価委員のところで、地域や市民に直結する仕組みという概念を入れていただきたいのですが。

【事務局：佐々木主査】

追加する(4)については、委員会運営に関することを想定していたのですが、具体的なイメージはどのようなことでしょうか。

【松井委員長】

市民参加や市民協働という切り口が施策として連動する、といったことです。

【事務局：佐々木主査】

市民参加や協働が拡大されるような仕組みづくりや配慮についての記載を入れると良いでしょうか。

【松井委員長】

協働というのは、施策の柱に位置付けられていますね。

【事務局：佐々木主査】

総合計画戦略計画でも一単元を立てていますので、まさにその通りだと思います。

【事務局：松田課長】

(3)の取り組み姿勢の中に、その部分を盛り込んだ表現にしたいと思います。

【事務局：佐々木部長】

具体的にこの部分、ということがあれば個別の施策シートに記載しても良いと思います。

【松井委員長】

バス利用の部分、交通施策でありましたね。花いっぱい運動なども、2つ、3つピックアップして入れていただければ良いと思います。

【事務局：佐々木主査】

調整いたします。

【松井委員長】

他にございませんか。

【岩崎委員】

庁内の行政評価会議は、いつ頃を予定しているのですか。そこでまた一部修正がかかるということもあるのですね。

【事務局：松田課長】

行政評価委員会は外部の視点での評価ですから、あくまでもここでまとめたものが評価結果となります。その結果を今後どう活かしていくのか、という部分が行政評価会議です。

【事務局：佐々木主査】

日程的には、9月末から10月上旬になると思います。

【事務局：松田課長】

本日出された意見に基づき必要な修正等を行って、皆さんにご確認いただいた上で、最終報告書としてまとめたいと考えています。

市長への報告については、委員の皆さんにも出席していただきたいと思っています。日程につきましては改めて調整させていただきます。

【松井委員長】

それでは、事務局にまとめていただいて、改めて皆さんにご確認いただきたいと思えます。本日はこれで終了します。どうもありがとうございました。

平成24年 1月18日 議事録確定

石狩市行政評価委員会 委員長 松 井 義 孝